

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年12月15日現在
(専技情報より抜粋)

◇大豆◇

播種の遅れから収穫開始がやや遅れたものの、11月の降雨が少なく、収穫は順調に行われました。12月1日現在の収穫進捗率は86%（前年89%）です。収穫終了は、県南地域で12月上旬、県北地域で12月中旬の見込みです。播種の遅れや8月の乾燥により生育量が少なく、最下着莢位置が低く、台風の影響で倒伏もあり、刈取ロスが多かった。収量は前年並（107 kg/10a）に少ない見込みです。粒の充実は前年より良く中粒主体です。収穫した大豆は適正に乾燥及び調製を行いましょ。収穫後、麦播種予定のほ場は排水対策を早急に実施しましょ。

◇麦類◇

11月中下旬の降雨が少なく、播種作業は順調に行われています。11月26日現在の播種進捗率は57%（前年66%）。大豆後作ほ場を含め、播種終了は12月中旬の見込みです。11月中下旬播種の出芽は、好天に恵まれ、平年並～2日早く、出芽後の生育は順調です。11月末以降の播種の出芽は、低温とほ場の乾燥によりやや遅い状況です。

播種前後の排水、雑草対策を徹底しましょ。12月中旬以降に播種する場合は、播種量を増やしましょ。11月中旬播種の生育旺盛なほ場は、3葉期になったら踏圧しましょ。

◇イチゴ◇

早期作型は、定植後の乾燥や朝晩の冷え込みで初期生育が平年より7～10日遅く、出荷開始は昨年より6日遅い11月7日（市場売立日）となりました。11月の高温傾向で生育が進み、現在、1番果房の収穫盛期～終盤です。果形や食味は比較的良好に推移しています。普通作型は、1番果房の収穫始期であり、果実肥大は良いが果形の乱れが見られません。12月後半の気温は平年並～やや低い予報であり、年末にかけて出荷量の急増はない見込みです。12月上旬までの出荷量は前年並です。

2番花房の出蕾～開花期になっており、着果負担や天候に応じた摘果、温度や電照管理などを徹底し、厳寒期の草勢維持に努めます。ハダニ類、うどんこ病などの発生がみられることから、病害虫の対策を徹底しましょ。

◇冬春トマト◇

土耕促成栽培の主要作型（9月中旬以降の定植）は、定植後の生育は比較的順調で、平年並～やや早く、12月中旬から出荷開始。樹勢も比較的安定しており果実肥大も良好です。コナジラミ類やうどんこ病の発生がみられます。今作に向けた対策の徹底で、かいよう病の発生はみられていません。

換気に努め、高温多湿状態を避けましょ。病害虫対策の徹底と適正な肥培管理に努めましょ。

◇温州ミカン◇

現在、早生温州がほぼ出荷終了し、普通温州が出荷はじめです。全体の出荷量も前年並まで回復しています。早生温州は、収穫時の降雨が少なく、着色が良好だったことから出荷は順調に進みました。果実肥大も良好で、腐敗果等のロスも少なかったです。普通温州は、糖度は平年並だが、減酸がやや早いため、出荷は前年より前進化しています。出荷量は、11月中旬の高温の影響で、浮き皮果の発生が一部でみられるものの前年より多い見込みで、2月まで出荷予定です。

収穫前の腐敗防止対策を徹底しましょ。収穫時には、ハサミで果実に傷等を付けないよう注意しましょ。貯蔵する場合は、庫内温度3～5℃とし、湿度85%を目安に、天候や果皮の状態に応じて換気を行いましょ。定期的に庫内を見回り、腐敗果の除去を徹底しましょ。

◇カキ◇

「富有」の出荷は12月上旬で終了です。今後、冷蔵柿の販売が開始され2月上旬頃まで続く予定です。出荷量は、梅雨の長期化により、生理落果が多く果実肥大も悪かったことから、昨年より少なかったです。果実品質については、夏場の強日射による日焼け果や秋季のヤガによる被害果が目立ちました。

収穫終了後は元肥を施用し、樹勢が低下している園では、堆肥等を投入し、樹勢の維持・回復を図りましょう。粗皮剥ぎを実施し、カイガラムシや枝幹害虫の密度低減を図りましょう。剪定時には、「早秋」等で発生が多かった炭疽病の罹病枝切除を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

秋出荷（10～12月）作型が出荷中です。9～11月の日照時間が多く、ブラスチング等の生育障害の発生は少ないです。一方、出荷量は、作付面積の減少や立枯病の発生も多く減少しました。販売単価は、全国的に出荷量が少なかったことから、例年以上に高いです。春出荷（3～4月）作型における頂花の発蕾時期は11月下旬～12月上旬と平年並です。

春出荷（3～4月）作型では発蕾以降の施肥は控えましょう。整枝・摘蕾処理を年内に実施し、ブラスチング対策を徹底しましょう。灌水量は少なめとしてハウス内の湿度低下をはかり、斑点病、灰色かび病の対策を徹底しましょう。

◇畜産（豚・鶏）◇

11月豚枝肉価格は、前年比111%、過去5年平均比では108%と高値です。要因は、内食需要が安定していることと、在庫がひっ迫傾向のためです。鶏卵価格は、前年比83%、過去5年平均比79%と低価格で、要因は供給過多のためです。

高病原性鳥インフルエンザが本県で11月25日に発生し、その後も国内で多発しているため、鶏舎の野鳥侵入対策等、農場防疫を厳重徹底しましょう。また、豚においてもCSF（豚コレラ）等の発生予防の衛生管理を徹底しましょう。